【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	群馬県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	吉井町立中央中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	４	１	１７	２　８
生徒数	１３２	１３８	１３７	３	４１０	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を身に付ける指導の工夫
～一人一人に応じた指導を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

＊　実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
・主に１，２，３年生の数学で実施し、１５年度の発表は１，２年の数学で行った。また、校内研修で各教科でも一人一人に応じた指導を心掛ける実践研究を行いその成果を研究紀要で発表した。

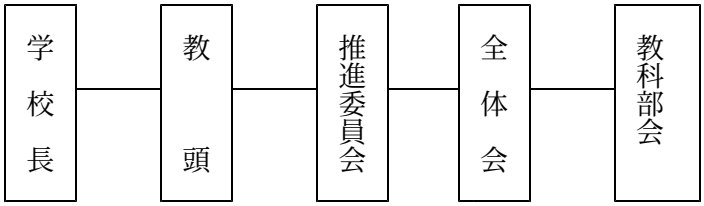
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ 確かな学力を身に付ける指導の工夫 ～一人一人に応じた指導を通して～ ○研究の見通し 生徒の一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るという観点から、個に応じた教材の開発、指導方法・指導体制の工夫、評価の改善の実践研究を一体的に行うことにより、「確かな学力」を向上するために有効であることを実践研究で明らかにする。 ○研究の内容・方法 ・１年生では、数学科で TT による指導を行っている。その中で、習熟の程度により基礎的な内容を学習したり、発展的な内容を学習したりできる場面を授業に今までより多く取り入れるようにした。２人の教師で役割分担し、基礎的な内容や発展的な内容を生徒の進度に応じて与え、指導できるように工夫した。また、TT による数学の指導の中でも、○正負の数の指導でトランプを用いての指導　○方程式でてんびんを用いての指導　○図形の分野では厚紙等で実際に作成させ操作する指導等操作活動を多く取り入れ関心・意欲を高めるこころみをした。 ・２，３年生の数学科では、習熟の程度により１クラスを基礎と標準・発展コースの２つに分けて指導している。基礎コースは説明の時間を多くし、標準・発展コースは問題を解く時間を多くするなど、指導計画を各コースで変えて生徒の実態に合わせた指導時間にしている。また、２，３年生の習熟の程度による数学の指導では、各コースの生徒にあった教材・時間・学習プリント等を工夫し、以前より生徒が操作して考えられる教材を増やした。また、上で述べたように各コースに分かれた後も、個に応じた教材や学習プリントを用意ができるように考えている。

平成16年度	○テーマ　確かな学力を身に付ける指導の工夫 ～一人一人に応じた指導を通して～ ○研究の見通し 生徒の一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るという観点から、個に応じた教材の開発、指導方法・指導体制の工夫、評価の改善

の実践研究を一体的に行うことにより、「確かな学力」を向上するために有効であることを実践研究で明らかにする。
〇研究内容・方法
・１年生では、教材の与え方を工夫しながら、習熟の程度により基礎的な内容を学習したり、発展的な内容を学習したりできる場面を多く取り入れて行きたい。単元によっては、学級を２つに分けて指導の効果を高めたい。さらに、個に応じた指導を進めるために単元により操作できる教材を用意し、関心・意欲を高められるようにしたい。
・２，３年生の数学では、習熟の程度により２クラスを３つに分け、理解が中程度に位置する生徒への対応を図る。各コースでの指導計画を工夫し、生徒の実態にあった指導の時間を計画したい。また、各コースの中でも習熟の差があるので、コースに分かれた後も、個に応じた操作活動や学習プリントを工夫し準備する。
・Ｈ１６年９月下旬のフロンティアの発表は数学で行う。このフロンティア事業を校内研修の一貫として位置づけ、全職員が校内での授業検討会や指導案検討会に参加し「確かな学力を身につける指導の工夫」に向けての実践研究を行う。

(3)　研究推進体制



〇研修推進委員会・・・校長、教頭、教務主任、研修主任、研修委員で構成し、研修の企画や内容の検討、各部会・各班の連絡調整にあたる。
〇全　体　会・・・全職員で「学力向上フロンティア事業」推進上の諸問題について協議し、共通理解を図る。また、理論研修などの各種研修を行う。
〇教　科　部　会・・・各教科に所属する職員で構成し、各教科における「確かな学力」の向上のための実践研究を行い、その成果の普及に努める。
注）　朝読書、英語の読み聞かせ、教育相談活動（ピアサポート）、総合的な学習については、「学力向上フロンティア事業」を支える活動としてとらえ実践を発表する。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題
１．研究の成果

・本年度は、校内研修の中で学力向上フロンティア事業に取り組むことになり、数学科を中心に他の教科でも学力向上のための実践研究に取り組むことができた。
・数学科では公開授業を行い、全職員が参加する中で、指導案検討や授業検討を行い個に応じた授業改善に努めた。来年度は、他教科でも授業検討会を開く計画をたてることができた。
・数学科では、１年生で数学科で TT による指導を行っている。その中で、習熟の程度により基礎的な内容を学習したり、発展的な内容を学習したりできる場面を授業に今までより多く取り入れるようになった。２人の教師の役割分担し、基礎的な内容や発展的な内容を生徒の進度に応じて与え、指導できるように工夫できた。また、２，３年生は、習熟の程度により１クラスを基礎コースと標準・発展コースの２つに分けて指導している。特に、今年度努力している点としては、〇基礎コースは説明の時間を多くし、標準・発展コースは問題を解く時間を多くするなど、指導計画を各コースで変えて生徒の実態に合わせた指導時間にしていること。〇連立方程式をカードを使って解くなど、操作的な教材を開発し生徒がより意欲的に授業に取り組めるように授業改善に取り組んでいることがあげられる。
〇１，２年生対象に数学の観点別絶対評価問題を９月（１学期の内容）と１２月

（２学期の内容）を行った。

９月実施結果　（各観点を１００点満点に考えたときの得点）

		見方・考え方	表現・処理	知識・理解
１年生	全国平均	31.1	70.6	76.3
	本　　校	27.0	72.5	73.3
２年生	全国平均	36.6	63.1	67.2
	本　　校	38.1	61.6	74.3

１２月実施結果

		見方・考え方	表現・処理	知識・理解
１年生	全国平均	47.7	56.7	72.5
	本　　校	47.6	54.1	68.4
２年生	全国平均	28.5	52.2	69.7
	本　　校	38.3	54.0	72.4

２．今後の課題

・学校評価によると、数学に限定できないが、授業が楽しいという生徒は 55 %（十分で 12 %、まあまあ楽しい 43 %）で満足できる数字ではなかった。今後も分かる授業の工夫と共に個が授業の中で生きる学習形態の工夫を図ることも重要である。
・全職員が研究に加われる組織体制の改善。
・数学科で習熟度別で指導をしているが、各コースで分かれていても習熟の程度には差が生まれ、その中で個に応じた指導が必要になったが、その対応についての工夫を行う。
・学力向上フロンティア事業に関しては、数学科が中心になり活動し公開授業等も行っているが、来年度はすべての教科で学力向上のための話し合いを行い実践研究を行う。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・１、２年生で、Ｈ １５年９月２４日（１学期の内容）と１２月１１日（２学期の内容）に数学の観点別絶対評価テストを行う。 同じテストを Ｈ １６年９月と１２月に行い変容を調べる予定。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

＊平成１６年２月１２日　フロンティアスクールとしての１，２年生の数学科公開授業と研究会実施（吉井町立中央中学校にて、群馬県内の先生方が参加）
＊数学科で教材開発した指導案をホームページに載せ紹介する。
＊多野郡の数学科で授業研究会実施

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　○□１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
○□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　○□少人数指導　○□Ｔ．Ｔによる指導
□その他

【研究教科】　□国語　□社会　○□数学　□理科
□外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　○□有　□無